

第10章 生物多様性保全

1 概要

生物多様性とは、地球上の多様な生態系が相互に関わり合う生態系の多様性、生態系を構成する豊かな生物種の多様性、同じ種でも異なる遺伝情報を持つ遺伝子の多様性という3つのレベルによって構成される概念です。人は食料や酸素など様々な生物多様性からの恵み（生態系サービス）を受けながら生きており、生物多様性は人が生きていくためには必要不可欠なものです。

その生物多様性が現在、危機にさらされています。人間活動による影響が主な原因で、地球上の種の絶滅が自然状態の約100～1,000倍のスピードで起きています。

このようなことから平成20年には「生物多様性基本法」が制定されました。また、平成22年に愛知県で開催された生物多様性条約第10回会議（COP10）において「生物多様性戦略計画2011-2020及び愛知目標」が採択されるなど、生物多様性保全への取り組みがより一層求められています。

八千代市内においても、暮らしの変化や都市化等を原因とする生きものの生息環境の悪化や外来生物の侵入等の生物多様性に関する問題が発生しているため、市民を対象とした観察会や学習会を開催するなど、生物多様性保全に関する取り組みを進めています。

2 八千代市の取り組み

(1) 自然保護意識の普及・促進

市民への生物多様性の普及・促進のための取り組みをしています。

① 自然観察会

事業名	里山歩き（吉橋地区周辺）
内容	市内に残る谷津・里山の存在に気づく取り組みとして、実施しました。
実施日	令和2年10月27日（火）
参加人数	15人

② 作品展

事業名	作品展「八千代の環境展」
内容	新型コロナウイルス感染症 感染拡大防止のため実施無し
応募点数	—
会場	—
実施日	—
来場者数	—

③ 子ども環境教室

事業名	子ども環境教室
内容	新型コロナウイルス感染症 感染拡大防止のため実施無し
会場	—
実施日	—
参加人数	—

(2) 谷津・里山保全計画の推進

谷津・里山は、山林をはじめ水田、河川などで構成され、昔から人々の暮らしと密接につながっています。薪や炭にするための木の伐採や、肥料用の落ち葉の採取などで、人に利用され維持・管理されてきました。しかし、暮らしの変化や都市化などにより本市の谷津・里山は減少しつつあります。人が立ち入らなくなった里山では、枯れた木や竹が無造作に倒れ、荒廃してしまっています。これにより、里山を生息場所とする地域固有の動植物が減少し、反対に農作物などに被害をもたらすイノシシなどの有害鳥獣の棲みかとなってきています。また、ごみの不法投棄も問題になっています。これらを解消するため、本市では平成22年度に県内で初めて谷津・里山保全計画を策定し、谷津・里山の保全に取り組んでいます。

① 里山整備ボランティア人材育成講座（里山楽校）

谷津・里山を保全・再生・活用するために担い手を育成する講座を開催しています。全4回のカリキュラムで里山整備に必要な知識や技術を習得します。

	実施日	実施内容
第1回	令和2年11月28日（土）	開講式、講義、ワークショップ
第2回	令和2年12月5日（土）	森林整備の方法（講義、実習）
第3回	令和2年12月19日（土）	里山整備安全講習（講義、実習）
第4回	令和3年3月27日（土）	講義、ワークショップ、閉講式

【参加者：10人】



講座の様子（第2回：刈払い機の実習）



講座の様子（第3回：チェーンソーの実習）

② 里山楽習会（里山シンポジウム）

事業名	里山楽習会
内容	新型コロナウイルス感染症 感染拡大防止のため実施無し
会場	—
実施日	—
参加人数	—

③ 市民ボランティアによる里山保全活動の支援

里山楽校を受講した人を中心に市内各所の里山で里山活動団体が保全活動をしています。

注) 里山活動団体：里山むつみ隊、里山・竹の会、里山フォース会、五蘭会、八千代里山ロック隊、里山・虹の会

④ 希少種の保全活動

市内の生物多様性を保全するため、ヤマトミクリ等、希少生物が生息する環境の保全活動を支援しています。

(ヤマトミクリとは千葉県内で八千代市島田谷津の水路のみに群生が確認されている水生植物です。)

⑤ 外来生物対策

外来生物とは、もともといなかった国や地域に人によって持ち込まれた生きもののことです。それらのうち、特に生態系、農林水産業、人の生命・身体への影響の大きいものを「特定外来生物」として「外来生物法」で指定しています。

八千代市においても特定外来生物が確認されており、千葉県や市民団体等と連携し、駆除に取り組んでいます。

注) 「外来生物法」…正式名称は「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」

八千代市内で確認された特定外来生物：アライグマ、カミツキガメ、ナガエツルノゲイトウ、オオフサモ、オオキンケイギクなど

(3) その他

① ほたるの里づくりの推進

「ほたるの里づくり」はホタルを通して自然の仕組みを理解すると共に、自然を大切にす
る人の輪を広げていければという願いを込めて始められました。市民から寄せられた様々な
ビオトープづくりの要望に基づき、平成4年度に印旛放水路・桑納川水辺空間整備計画の中
で水に親しめる川づくりの一貫として位置づけられました。平成5年度からは基礎的な知識
を得るための先進地の視察をはじめ、ホタルや餌となるカワニナの飼育に取り組みました。
平成6年度は里の基礎調査、基本設計を行い、平成7年度から平成9年度にかけて里の環境
整備工事を完成させました。平成10年度にはグラウンドワーク方式による「八千代市ほたる
の里づくり実行委員会」を発足させました。グラウンドワーク方式による実行委員会は市内
でも初めての取り組みです。

八千代市ほたるの里づくり実行委員会は、ホタルも棲める自然環境の保全活動等を実施し、
市は、同委員会とともに生物多様性を維持する自然の保全活動、普及啓発を推進しました。

注) グラウンドワーク方式：地域活動の専門組織を中心に住民、企業、自治体等地域の関
係者がパートナーシップ(協働)を取りながら進めていく方法のこと。

所在地 : 八千代市米本4816
 里の面積 : 3,293 m²
 水路 全長 約 30 m
 幅員 平均 1.5 m
 池 約 317 m²
 湿地 約 140 m²



ほたるの里 トンボ池付近

[ほたるの里に係る活用等]

	内 容	実施日 (実施期間等)
イベント	八千代市ほたるの里づくり実行委員会総会	書面開催
	おやこ生きもの探検隊 (年3回)	中止
	親子で学ぶSDGs・ESD	令和2年8月1日(土)
	研修会「チョウとガ」	令和3年3月20日(土)
環境整備	ほたるの里内の除草作業や動植物等の保護など (年間7回、原則、毎月第2土曜日に実施)	令和2年7月～ 令和3年2月
広報活動	会報「ほたるの里だより」の作成、発行 (市内の 公共施設、東葉高速鉄道の駅などに配架)	第62号/令和2年7月発行 第63号/令和2年11月発行 第64号/令和3年3月発行

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、総会は書面開催とし、おやこ生きもの探検隊・環境整備の一部の日程は中止となりました。

② 環境学習ボランティア講師登録及び紹介事業

環境学習をボランティアで行っていただける市民・団体を受け付け、環境学習を行おうとする市民団体に紹介する制度を平成17年度に発足させました。

ボランティア講師登録数：13 (9人、4団体)

3 八千代市第2次環境保全計画の進捗状況

八千代市第2次環境保全計画の進捗状況

環 境 指 標	基 準 年 度 値	現 状 値	目 標 値
	平成27年度 (2015年)	令和2年度 (2020年)	令和2年度 (2020年)
谷津・里山保全箇所数	4箇所	10箇所	8箇所
ほたるの里活用回数	16回	8回	18回
環境ボランティア講師登録人数	11人	13 (9人、4団体)	15人
環境学習等参加者数 (※)	713人/年	191人/年	1,100人/年

※環境学習には、生物多様性以外のテーマの催しも含まれています。